

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												トリパノソーマ症	FDA News P06-198 2006年12月13日	米国FDAは2006年12月13日、重篤且つ致死性の寄生虫感染症のシヤガス病を引き起こす血液寄生虫について血液ドナーをスクリーニングする新しい検査を承認した。この試験はORTHO T. cruzi ELISA Test Systemと呼ばれ、trypanosoma cruzi抗体を検出するもので、このような検査では初めてFDAに承認されたものである。この検査は、全血の供血者のスクリーニングに加えて、臓器、細胞及び組織ドナーからの血漿及び血清をスクリーニングするのに用いられる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006; 12(44): 4-5	伝達性海綿状脳症 (TSE) 諮問委員会が2006年12月15日に公開で開催され、ヒト血漿由来抗血友病因子 (FVIII) 製剤におけるvCJDへの潜在的曝露に関するFDAのリスク評価ならびに血漿由来FVIII製造におけるTSEクリアランスのレベルについて討論された。このリスク評価に対して諮問委員会は、報告が強制でないことや、最終製品のリスク減少を推定をする際に用いたエビデンスに対して懸念を表明した。
												梅毒	Lancet 2007; 369: 132-138	中国の性感染症サーベイランスシステム及び監視サイト ネットワークからの症例報告データを収集し評価した。中国における報告された梅毒の全症例発生率は、1993年には100,000人あたり0.2例であったが、2005年には、第一期及び第二期梅毒だけで100,000人あたり5.7例であった。先天的な梅毒の発生率は、1991年には100,000例の出生児あたり0.01症例であったが、2005年には100,000例の出生児あたり19.68症例まで、年平均71.9%の割合で大きく増加した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA Press Statement 2007年1月18日	輸血と関係した新たなvCJD症例(4例目)が、最近診断された。この症例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血を受けてから約9年後にvCJDと診断された。同じ供血者からの輸血は以前に同定された1例とも関係していた。4例目の患者は以前からvCJDに暴露した可能性を知らされていなかった。4例目のvCJD感染症例により、輸血を介したトの間におけるvCJD感染リスクについての懸念が高まっている。4症例は全て、成分輸血に関連した症例のものであり、血漿分画製剤による治療に関連した症例は今まで報告されていない。